



東照宮百々條
徳川家系圖

完

ワ 3
7073



御遺状百箇條

村野孝齋



73
7073

91-2166



河邊狀少實藏入百箇條

一 先避己所好專可勢己所嫌事

一 釋寡孤獨之輩よりひくはを憐とく

一 是仁政の基たる如く

一 當宗神祇塚廟心身生涯不之忘事

一 代小世流らむ時を井仔本田酒井柳屋

を巨命命とく不依縁之遠近之終

一 當志と撰んく相評く相議く可

青
長



相定事

一 征夷將軍道下ノ式法ハ豫倉府ノ御目奉
國知行ノ如ク三百拾九万石ノ内ノ子
百石トシテ死留志勤ノ人小石拾九万石ノ所
知行ノ

備 惣表ノ警備格四表事

表部 徳法度ノ條古例ノ準トシテ
時ノ世變ニ適スル格意ト爲ス事

一 格別ノ大坂前陣以前分隨從我々トシテ
徳代トシテ所賦ノ役俾使ト爲スト外
トシテ外格ノ格ニ依テ徳代ノ子孫格ニ
同門ノ土八家ノ肩礼トシテ

松尾左衛門督

三花左衛門守

徳川海徳

松平左衛門督

下田清所

龍溪柳川

上州

備前以石

徳川家名札の沿革

上州お田

いざ別と并々行事一様と云々の事
 江戸職内と云は被給右持鶴の正進と
 左廊と云と存入ると此の廊と云ふ事
 之の廊と云と酒の事と此の廊と云と申す
 のと云ふ廊と云ふ事と云々の事
 書院殿と云と十穀と称し且云々通と云々疾
 と云う持鶴と云と七曜の配と云々の事
 と云う持鶴と云と七曜の配と云々の事

二十八夜よ衣と云と
 其との衣は別将軍と云と云々の事
 堅固と持事

ある後代ものと云と云々の事
 此の記と云と

高尾 梅倉 大久保 戸田 柳原
 酒井 石川 申振 久世 河部
 加藤 赤松 伊沢

多也い若き子孫意量備ふるもの哉
司とて將軍存れ政務とてしつけ
を長と稱とて外候の由たとふる哉
ありとも南は仁みやる事

一 夫小藩代もそと皆我為子孫粉骨志士
之そ子孫不存跡よなとて若き返送地
外ハそ家没ぬとてしつ事

一 國司城と領と外候藩代は候とて念法

破り改とていふ若りて人極又責成
りふ若連よ玉誠とていひ可敬武威は事
存り候ふとて

一 同役、七お吏利座のさ下不て中、宿位
若若ら向に備候言とて上座より相極事
一 評定交新所、も行へ、改及の禮之若よ
若る者、妻人とて撰へ、亦清潔に、仁若
若志とて、一月、一、なる、石時、若、若と

出〜之字或之不時之自出〜一聞評定〜

厚也裁断了〜付事

一 春表後人法隆〜之下物之と色、年

不能為之別今茲之記と

大老信 大老信

大老申

京福司 大坂城代

海河島

若年寄 御用人

二の家

奏 寺社奉行

奥年寄

西尾 御用

大目付

大目付

平 友合

勘定奉行

町奉行

大奥處從

中奥小姓

書院書院

大 毒丸

新者丸

御用

相問紙丸

厚筒紙丸

美著問紙丸

使 毒

本丸之丸
二丸日光

記御所役人

表目付

大守定書

御奉行

刀 毒丸

持丸

持丸

廿七 厥別高

廿八 久延頂

廿九 儒定

卅一 松子氏

卅二 德孝氏

卅三 醫師先道

卅四 同明頂

卅五 德目符

卅六 忠誠氏

卅七 德頂

卅八 貞是孝氏

卅九 普法孝氏

卅十 物心存書

卅十一 小人氏

卅十二 丁子二氏

い等と物... 是と交死... 他方...

交死... 越棟梁...

我者... 時征伐...

とる取... 海救民...

一途... 子孫永...

續... 子孫...

氏... 子孫...

新... 非無...

...

願出るの事むしむるに味と逐て付係あり
取降の節むしむるに味と逐て付係あり

一 新地新地等の新式に依り奉るに古例
無く古制事と不通にて禁止次第多く
是ら出るとしむるに味と逐て付係あり

一 備前事いふに奉るに味と逐て付係あり
備前事いふに奉るに味と逐て付係あり

一 法網郡一尾村に後長に内を村を置

七束由法に古例と奉るに味と逐て付係あり
遠来の職長に族長を用ひてはるに味と逐て付係あり
所々旬備國司領に城之地領以下可
カハ派事

一 役付に外儀代外儀代に大小を承せまは
むるに味と逐て付係あり
國長の出立と逐て付係あり
下外郎の國式に補換著法に傳中事

防清亦く後後も宛ぐ——今球者亦く新
禁程叙之衛の將軍城に於た也

一 褒賞勅旨をく方編後親云爵祿又ハ官
位役職等也刑懲懲創の亦ハ墨割巡流
緘囚象礫火斬等也孔明も即ち多寡
を科く程を——
其科く程を——
其出とし古程又ハ急を——
其科く程を——
將軍亦く不及其也

一 古方吏の同準我亦く濫も近付ぐ
逆我の亦く濫も不及其也
其科く程を——
其出とし古程又ハ急を——
將軍亦く不及其也

一 古云く亦く皆曰く殺る玉民也曰く殺る後
察て殺る理——
可崇而格亦く崇く理而海崇く是別表
遇はる後亦く研遠く別表也
國之亦く多も

一 鴉鳥狩の前人 是と訓とて水非道
遥命危の殺と法依狩捕 一 摺と
上天より 皇威に朝武村の古格也
士卒列ら馬あふく 亂世之極是又
不て欠事

一 徳染と名由とてお村の市業より 一 此と
付と 摺とと物事とよあふと 一 此
和也 幸月序節のありと 一 廢と

るうとと

一 西二郎 江家より 幼徳貞純親の山下景代
源景の武村為 徳徳城内 宗三殿末代 宗
徳 一 系典 貞 一 一 事
一 我権中と法 一 一 高流を河松子徳親との
為子 俊 一 一 一 民間子 一 一 事
一 一 一 今 一 一 事

佩天恩回世良田新田徳川の祀業

従是累代に世々といはれんと稱とす 惟終
追遠の事なき事

一 惟我一代に戦場如終八九十合なる
出可死得一生もの十八度如る 厭離欣求
の法文と帯て得死な子今開闢素十八
檀林謝く子孫永く之為淨土宗の事
一 武府城素の敵に我蒙吉大師に如祈
無謝も恭清一品親王天台座主

奉祈願惡能仇降碎國難靜謐以備
之誠の成言也 禁廷若為我助に法
給ふけと親王と室祿に罷り將軍
輔弼に可致征伐事

一 有素宗門の宗の外上下同く之に
そまじある宗福と古素天下の苦之
之信事

一 源平前橋及菅にありて系流承等之姓

皆 上帝下臨ふく姓也い内く武將する
人 といふれに之蒙ら備もよも又学指さ
人 といふ買いた時く謀望私こふ出く
武 といふく事 といふく不能其辱
徳 といふ後半子響、自勵 といふ 徳と
勵 といふく徳事 といふく
治 國平天下の法とて平人 といふくは
不 力 といふく士人 といふくは徳をば

猶 依 未 求 是 投 水 覓 中 かつとく
激 々 矣 忘 了 事 といふ 徳 といふ 事 といふ 者 有 之
ヤ 事 といふ

一 凡 天下の生民不能其病古聖並憂く之
二 位 府 司 といふ 徳 といふ 有 徳 我 治 天下 といふ 武 法 といふ
天文社職の惣評ハ本朝古例と
從 淺 深 可 與 自 應 の 徳 事 といふ

梓 敬 堂 といふ

一 興 といふ 福 海 といふ 福 利 必 忘 之 業 徳 といふ 功 力

痛罰不可控務事

一 巫史葢彼野山依育女鬻豊と云食糧多
詔拒もる者有古来可司乃年福或濟
為而者或法と詔刑罰不可厥事

一 佩劍士と生靈多都の一人といふ事
不伴い事

一 郡國云私自他領の事ハ又福之奉大
河内海陸の割付の通り記録

禁塚の惣政所 江と次林野山川等

この内之に前領の事ハ用軍役アリ

大河内令々諸 是字評馬のせん社 以前核地三百平坊
渡辺 洋正 松平安鹿のせん社 日付の三百坪毎人の世に

子石と子騎万石と子格騎万石と

子格万石と子騎是と一軍とと騎三千と以之

軍の備とと上將是と一軍とと一軍

ととと申將とと一軍と一軍ととと下た

そ外の小評ハ前載記録著

一 任商家の吉例の井伊万子代丸為上將
許金幣の事多平八平为中將許銀幣
以村と云ふ事為下の興後幣也と云ふ
このい許不細なる事

村上素直 子五百石

一 諸士取領の院割付の通毛取不致
違者不許止事 及事偏於所
安新所 條目及思記録を裁断若事

籠交の松使役大目付初定事此
まのと云ふ所 古例と追記録の通
事 付送を裁許厳許なる事
此と疎しと減おと事

一 信長継る疎きとも對連位に成式
古の門は同然なる事

一 喧嘩丹傷も成致他依場を化除
其疎式なる事

搜しつゝあふりな事

一 巧く教へん或る言辯と念或る力私欲

毒害或る過徳 備へんと善福

一 分草搜あつて得戲事

一 士と官民の日月孝工高孝射七石で致事

働世礼い今云意外者也射七意外致者

能前く不始く又連信信下衣信

く亦二意外及子あめくくそ解く為同事

一 男女は室人へた偏也十三年^上得居と

居くこと求媒始る可信世姻く礼物を世

不可娘同姓撰事節結縁く 子孫相

續とれ時ら者山人祀く開顔人へ天理

く中と奇るこいる不夫く 法事

一 宗子なる者も縁事あり 家叙と

因く 他者へ 持云事此下こもの事

書子の例と 宗子と云ふと稱

將軍よは能者といひ信儀よち世子と
 名付たまはま以下善子といふ善子なる
 善子ありて相承そのハ親疎よ不
 拘没収とて天下と天下と一人の
 天下の理は理は理の道也物も
 一人初年たるもれ續中付不事
 天子ハ巡狩諸侯と連威の代と
 或ハ五年或ハ七年よ出諸國巡見使て試

一 國司願之の悪居り巡跡民家の安否耕
 作の事表城館の條法示是又不以此事
 一 舊来の國司と不相関事ハ以下と不領
 一 他承代りてと事と相違
 一 物多不於地とて此之承領時と
 一 少驕己備民といふ事
 一 卷二商の夫妻密に他吏と通氣のハ偏
 一 商吏及所出双方下譯と係譯を以

不律と人引當事と、懲照不後人同
強と、不律を於親出と、律と不律と
二紀有支承陰陽合群と、人氏非之痛
神、文裁律と未をと有群、砂事

一 我門と強と、男女必例、或強と不
混報福有花法と、戲私淫と者、建
了、雷神、非為神、砂と、表之、高不同事
追、殺、表、罪、神、之、朝、歌、と、為、と、

一 後於養、厚、而、強、と、者、至、近、州、根、裁
強、と、と、と、と、維、不、殺、家、事、對、と、人
於、殺、子、格、は、日、神、と、は、と、事

一 妻、妾、と、別、の、表、は、と、例、と、は、と、と、
妾、ハ、天、子、に、十、二、妃、諸、侯、ハ、八、嬪、方、丈、に、五、嬪、士
二、妾、を、以、下、と、正、妻、同、の、古、聖、と、是、と、礼
祀、と、と、と、と、古、今、の、帝、典、と、愚、者、の、歸、と、為
是、妻、妾、が、妻、に、と、と、と、と、亂、入、倫、古、と、願

城之固と此是に分ちる豈不戒之溺
者と此患は之と氣を下一知事

一 女史守邦に妻納り天下に通儀也其妻
守邦の失威之存し先兆多し此
農と此病是より請と射と一
い病と是又知人の心助たれ事

一 武州岩附川我流お依倉岡花吉河
上州之崎廣城水に役付去儒代し七

一 一城之要事

一 強州府申より能くお城を以て幹士に令
勅書と為り城に懸置事

一 山州二條の城廓、今役家股肱に
代上將令守護以爲皇朝に治むに玉府
將有外、然西之指之、隨是麾揮也

一 郡國海陸の通路、大小國所、三箇所
穢男女、亂法、与邦城、固不拍祿、

下は古語漢代に令勅書に之は規條に
通事一なる事針^也容^に一なる事
少事馬とて通^に事

九州探題の事なる事申^に得^に職^に定
是と令^に請^に津^に福^に請^にあ^に家^にと令^に為^に滿^に年^に永
い職^に記^に事^に一なる事

武府城下の幕幕所内廓二十八箇
内廓^に記^に事^に一なる事勅^に書^に内廓^に漢^に代
五府^に之^に内廓^には難^に本^に系^に勅^に之^には
之^に授^に勿^に備^に武^に員^に力^に戦^に軍^に械^に少^になる事
昔^に教^に候^に之^に一なる事

系^に勅^に之^に城^に下^に之^に役^に亦^に之^に難^にを^に働^に依^に之^に
福^に之^に事^に下^になる事一なる事
一なる事内^に游^に之^に一なる事
是^に不^に付^に之^に公^に用^に之^に一なる事

肥前長崎の黒城は私^に津^に一なる事
二箇^にの^に押^に

包居の上座関へて致す又配勅書も諸代
の皇子衣所とてせられ張りに致す并出所の
お添役料 一 おおとす 一 付事

一 國家修造化へ夏山川海濱乃諸津所
補掛へ其員は其國は相違津所も其意
出へ給へる也役買加金隱倉所引取代
へ例致給へは程は全非私に諸代永
へ進い例と書

一 天下へ通路自他領芸に大海に其に
幅のなる并木のなる其の亦る宛小海道に
其幅のなる備のなる其の亦る宛横に其の
其幅のなる備のなる其の亦る宛出に其の
其幅のなる備のなる其の亦る宛捷に其の
場は其の幅のなる其の亦る宛渡場に
川側へ其の幅のなる其の亦る宛除草と
定法とて其の亦る宛部 一 一 其の亦る宛

且以縁へ往來し、次第とてとて路をさし
南に大野の助兼へ古格とて事

一 山川海濱歩し、詔運と金と遣ふ是と
不用此とて 禁裡へ用費事

一 卷民於耕と云評極に云に、行本
生嘉時と為法化の喜新、山古山の事評
出別とて林と旧目通、有る園とて人本志
たれとて、石存とて、新とて、一、不務

一 伐拂とて、罪ふとて、百日、同長、事、付事

一 此と一、村、屋、敷、續、し、を、境、と、大、本、投、成、の
隣、家、穀、二、の、隣、事、高、上、納、の、指、と、な、り、い、ふ、ん

一 松、投、成、ら、伐、為、成、ぬ、ら、法、撰、事、と、付、事
同、と、云、色、に、格、な、し、後、不、務、事、往、來、し

一 瓶、取、と、又、ハ、用、事、の、指、と、前、に、法、用、事、
并、於、通、川、使、り、後、指、と、下、に、不、願、願、
材、と、格、勘、定、所、と、法、成、り、例、事

觸り——事——

自古以來無喻者其和合如形と云
事——た將心と不可取ら又勿施人
之金云——云よ不怠以下を徳に化せしむ
只は心と云はるる事と云ふ水のりもはる
事——

一 自他交りて神——心もの、儒教佛
道木の外心と云ふと云ふ人々も、

暫爾我主と人志と他人のまよふ所と
是れと夫の理よりと云ふに於世る用捨動
并詳らるる——其解の初初惑記術、
ら心——ものも好用又強の廢と
——事——

一 游女夜多好の淫一所の國府——附虫と
看子是と待た法典いよと云ふに不無との
也二偏制——邪ら乱統不儀し若目よと云ふ

不違刑伐而此條目は概天下の大法之
至下後方隅の細事御漢高の實仁事
尚姓家之格或ハ謙倉好と準繩とい
他姓家之風儀ハ不用之好といハ小松好
廢と云ハこと事

一 主死るそ法及殉死事一 誓古例御以無
之理者子己と誰一 家能備と
長ハ勿備信長以下と云ハ割と

若遠新とは都る旅志信と士とに没収
一 把法ハも之體たると事

一 出軍將之の術無地有ハ表の平なる
有常ハと少事ハも備充整と也
凡事の用とらと事一 隨ハ不足盡ハ用
一 誰ハ不為無ハ用人の用ハ又同ハ亦者ハ
用部需者ハ用常仁者ハ用仁強者ハ用強弱
去ハ用弱ハと事ハ隨ハ隨ハ用ハ一 強と

惡弱者不為強者之用於少雅之不足語
用之捨之之意又常之端也察之理無不察
將之賢愚之有無月使人者群臣合新上下
相懷不致之天下自然之平治之致端之限
らひ於平乃之為也事

一 貴戚充道則能已之驕驕矣自然之
實祀懈之慎古より告終り矣神玉の正
私欲之源を符めれば必らず天誅有り

親王家宮方接 天子身言の宗徳相所嗣
公卿等相續不遠古法無礼之風致 兼事
振に仕る事

一 子孫富貴礼之由を載記海通隣より
との文海より 風俗格或もと商家の
関所よりと物産よりその内を貴上徳長
之進政を奉養し 是征を將軍家より職
分也須吏より於務とく

一 衣襟屋着山水元 之主もほいほい 家門
十一家の子孫家督の嫡子相續二男之男
等小石下既分取領之る婚由縁之る縁
家造縁——之取縁之家の取縁之る
和と——十八家同前——事一歌
十八家 馬辰板倉乃乃保戸田 去屋
小善系 林系 社元 海井 石川 母清
中夕 川藤 赤髪 中根乃世 河部

伊波

衣十八家古系也

一 格万石山と并 芝居乃衣後諸番通系

一 祿乃——可為一個二時格式之事

一 遠代外格法家之七女史系勅交代又と

一 不格外一考矯才或系孫領之人安ける

一 暇之長光后了中 渡事

一 海陸舟後人馬之清資料 八景路徑

一 遠近諸國運銀米乃積貫月之快喜委
由以定法下中付包公用傳馬未之無送
湍松令吟味之為格外事

一 諸代印傳國司令之同系節之細如
帛者送之老臣之故文既一乃石以之
金之代乃石以下銀之代各之應之老
臣納之乃究為後料事

一 群臣之固有乃府格之乃始簡之又敬守

一 之職而精之矣之志願之不思之乃以也
不并其乃別以乃不有之乃乃

一 證格 一 一 一 賞得一篇

一 賞客之事

一 寺院山門建立之乃右開極極之時天
之乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 以乃帝極異朝帝節之守護天
乃山門之乃水成本朝王城之守

依之号山門者其例如何

當時我朝之出辭例以女立今上皇
帝而躬一乃采之壽位者一於是二括
河州之寺院と抄取重山門者七括之例
記之系教文條二年一月十一日猶天皇
山於奉和山例 依年之始化百有年
羽林家に 征果た於事 儀之 禪念以來
辱天子自授之 提芥 戒時 信之 奉

律之也号令中 以 儀神 祇官 儀
上下出勅之 化之 子 避内 海死之 治
釋古法の こと 乞之 抄 守 事

一 志己家 儀 特 奏 一 及 乱 治 白 免
一 儀 奉 之 儀 之 為 非 托 上 之 号 儀 儀 之
一 下 儀 之 是 之 儀 一 破 家 元 号 子
一 一 儀 如 子 儀 一 不 敬 儀 儀
儀 一 一 儀 一 一 儀 一 一 儀 一 一 儀

とい利依、刑罰、将重之依
其系事

一 惣々、官吏老志已、其職分存、逼
飢乏、竟、致盜賊、犯法、悞人、為
害、泥、下、腐、斬、刑、敢、中、誅、判、流、毒
仙、金、々、西、心、意、ハ、下、腐、飽、據、者、禁、未
教、科、事

一 凡事、及、穿、鑿、之、時、公、長、之、戒、刑

一 天、壤、一、同、表、秋、戎、變、の、意、革、根、去、の
下、之、至、速、の、旨、々、々、々、々、々、々、事、凡
強、探、之、人、の、心、法、色、は、上、陳、念、所
用、人、表、嘩、卓、の、例、照、鑑、下、下、儀、の
と、城、下、之、街、備、の、掛、合、御、或、之、罰
札、之、記、々、々、儀、若、の、次、身、令、是、之、用
色、々、々、石、是、照、以、之、胸、涼、事
子、穀、不、難、々、々、天子、政、令、之、不、以、也

國家之多刑威之於軍不徒一威也
 知事一者之有有我牙不亡忘懷事
 上立親條下子能出其號令之
 跡球如親條下海之不服之於一致
 端之
 一 研究此事
 一 天下乘不
 一 想後之也又了皆遠及之也

不及籍之也
 一 禁程化洞
 一 飛去之天下
 一 上吉之口海
 一 以承相之公將軍
 一 凡有表則心日海舟

居りてとて於て親誦、其深潛心て自
知事

一 黄符を以て思はば隠不取心印、麻人
怒ら不及知有花事

一 右道居りて、~~其~~換意源家、歷代の古
摺、立教箇條之法、度より

述、不化の心、
我之、新親の局、飛龍紙、不中
全此

孝道、
過古、
一 右取喻、
一 儒代、
一 詳見、
一 分限、
朝至、

過古、
一 右取喻、
一 儒代、
一 詳見、
一 分限、
朝至、

一 右取喻、
一 儒代、
一 詳見、
一 分限、
朝至、

一 儒代、
一 詳見、
一 分限、
朝至、

一 詳見、
一 分限、
朝至、

一 分限、
朝至、

朝至、

此百箇條以小池坊在明僧來之寫之外尚
以增寺僧正便與隆善和合本之此墨本也



國東齋人川為之

安政之辰

以津田川為任

七月廿二日

和室孫之為世是凡書



徳川家御系圖

全

清和天皇卅五世

贈正三位大納言廣光乃仲嫡男

家康不知在竹代在

天父十一壬寅年十一月廿六日於三羽是時降誕生弘保二丙

辰年正月十五日降元體稱徳川一帝之弟元徳也日三丁巳年

二月廿二日任爲人承孫二癸亥年九月稱家康也日九

丙寅年十二月廿九日復爲位之何也承孫叙任日十一丁辰年正月

十一日任在東京入元應二年未年正月五日任叙從五位上日五

丁丑年十二月十日任叙從五位下日月廿九日任在色博持也

武藏國多摩郡
野津田邑野林
健造圖書記

日八庚辰年二月五日... 叙授... 日十一癸未年十月五日... 叙授... 日十二甲申年二月... 亦七日... 叙授... 日十四丙戌年十月四日... 叙授... 細云同年十月五日... 叙授... 日十七壬寅年... 二月六日... 叙授... 日十八癸卯年二月... 叙授... 長者... 叙授... 日十七... 叙授... 叙授... 日十七... 叙授...

安院殿一品大相公德蓮社崇奉道師大居士

元和二年二月亦一日

初号 尔思大控院日年三月九日... 叙授... 日四月... 叙授...

日光山... 叙授... 日... 叙授... 日... 叙授...

初号 官號

淨文者

廣志卿 德川二帝之帝

天文十八己酉年二月六日 淨遊玄

大樹寺院殿意政道幹大居士 三利大樹寺

清母水師右衛門奉忠以女稱 大吉殿

唐長七壬寅年八月廿九日 涉通玄

小石川

傳通院殿一品太夫人慕容充岳智之大姊 傳通院

家康云從四位下少將之弟成山左大臣 涉室園口刑部大

將兼左大臣 舞山殿天正七乙卯年八月廿九日於遠別

濱松清生官

是所撰本二候

清毫寺

清池院殿德月秋天大姊

信康卿 涉知右行左侍右 昌涉之弟

永祿二己未年二月三日 由後生天正七乙卯年二月十日自遠

別於濱松二候清生官由是亦一軍

清母舞山院殿

清池院殿德月秋天大姊天正十升八月廿九日清生官
今川一被園口刑部大姊元卷女

常法院殿隆石長辨大居士

是所撰本二候
清毫院

慈照若

依所撰本

吳年九月廿七日信昌室

永祿四辛酉年十月

涉長生稱加納殿寬永元正年正月

亦七日由逝去清母右同由是亦一軍

清德院殿高林慈雲大姊

信陽
妙心寺

德非君

永祿八乙丑年 淨徒生元正卯年二月增出通去卯年

云指一軍 淨母持殿 長持女

良正院殿智光唐安大姉

东山 智忍院

秀康卿

初末老乃君子後繼世七帝朝光十九代時朝一尊位以
亦初名 於義丸君 於中納言之位之河守
又曾繼世家内在後今大和守也

天正甲戌年二月日 淨徒生唐安十二丁未年四月日

逝去淨母亦之志摩身女於了之卯年之拾日

長勝院殿松室妙哉大淨持方敷實孝願寺

後改

淨光院殿景首門道前運正大居士

神方 孝願寺

秀忠卿 淨知石 長也石

天正巳卯年四月七日 淨徒生

天正十五丁亥年八月日 淨徒後從女徒下孫人淨由叙任日

十六休子年正月日叙任正女徒下日十八宮年十二月亦叙任

日徒下侍從由叙任日十九卯年十一月日叙任正孫由叙任

推中酒云本籍守中道任元福元王原年九月在位之位病
云云叙任度長云 辛丑年二月十日任任控大綱云月八日
年十月七日在色博大將右馬寮清監由兼任同十乙巳年
四月十二日征夷大將守中三位用大尾淳和兼守西院別當
牛車云按定平月十九甲寅年三月九日從一位在太尾由
叙任寬永之西宮年八月十日任任大政大臣月九壬申年
四月十日薨清同年三位贈官
在德院殿一亦大相玉光蓮社
清母西江源在病門口胎女稱西江為二大正十七己丑年有

增上寺

十七日山遊云

西光院後政岩秀貞大姊
秀忠云之古村法政 清法号

昌後

寶善院後贈一亦太夫人松養員樹大祥尼

富善院

清母所 大同秀吉養女實清并傳方子也

稱大德尼

寬永之西宮年九月十五日清誕生

是

宗源院殿贈一亦太夫人昌養和真在清祥尼

增上寺

忠吉師

山知石

福叔尼若

松平德摩守

德下

天正八庚辰年八月十日 淨戒生

淨如西白局

慶長十二丁未年三月 淨逝去

性之院殿憲堂玄白大居士

淨年二十八

增上寺

老姫居

淨生 淨年二十八 淨年二十八

天正八庚辰年

淨夜生

淨如秋山新守虎安女稱

下山殿元和丁巳年八月晦日 淨逝去

昌清院殿英譽景悅長芳大姉

由年二十八

善利廣海 正清院

姫居

北条和模守室信 池田輝四室号

台徳院殿 良正院殿

淨養女

信吉卿

由日百二十行九

天正十一癸未年四月十日

淨夜生

淨如下山殿

慶長八癸卯年九月十日 淨逝去

淨禮院殿前常列英譽長壽山宗石大居士

由年廿一

淨禮院

松子代丸

天字九章卯年二月之日 淨誕生

淨母山白氏女稱以某月度長已亥年正月之日 亦逝云

某昌院后大孫淨安淨童子 淨年九章

忠輝卿 山知石 辰子行君 鐵後少將 從後下上從助

文祿元壬辰年 淨誕生 淨母阿榮之方元和七

石年二月之日 亦逝云 小石川恒末末建

朝元院后定養宗度大姊 宗度寺

寂林院殿前羽林公養輝憲月仙大居士

信列 庭松院

淨年九拾二章

仙十代君 年岩王斗取親衣后 養子

文祿元年十月之日 淨誕生 淨母山白氏女稱以某月度長已亥年正月之日 亦逝云

相真院殿信養公高天姊度長已亥年正月之日 亦逝云

年二月七日亦逝云

高岳院殿華憲林陽大淨童子

尾列在土尾 高岳院

淨年六章

唯君

文孫曰乙未年 淨苑生 淨母問安堂方守唐後
女孫人方安女之丙卯年正月十九日逝去

法雲院殿心天會光贊

淨年四月

義惠卿

古初名

為太君

尾經控大御之後位有嘉

慶長女 癸子年十二月十日

古誕生

淨母於癸子年

慶安之庚寅年五月十日

淨逝云

相傳院在於尾經之好
老山古志

二不世相尾陽懷源政卿

古年卒

蘇尾別名古尾

賴信卿

古初名 長福君

紀傳大御從二位左陸

慶長七壬寅年三月七日誕生

淨母之長山長門守成廣

養女稱藤山房實心末左近守之藤長女於百之百實文十一

辛寅年正月十日逝去

南龍院殿二聖相顯承天日光大寺

紀并修各

古年七秋

師於百之百兼意二年卯八月十日逝去池上寺門寺入蘇

養珠院殿紹日心大姊

紀別於山建

養珠院

賴府卿

古知在舊子代君

在存國云云在傳之曾

慶長八癸卯年八月十日 清誕生

清甚母太田新七郎康賢女於如如之日

清實母薩呂殿

寬文元年辛丑年七月廿九日 清逝去

初於小宮 長卷後春大姊 英勝院殿相列於通念石谷建
英勝寺變永十九年八月十八日逝去并列之也葬 陪取院

王之位前持中納言右大臣源藏公

清年卒五歲

市姫君

慶長十二丁未年正月朔日

清誕生

清母於如如之日

慶長十五年庚戌年二月十二日逝去

一照院圓若如大姊由幸四歲

仙唯君

始豐後內大臣秀朝正室屋中後在之在幣大痛忠刻
由五歲

慶長二十五年

清誕生

清母大津老探寬文六四年

二十二月六日逝去

天樹院殿兼兼源佐木山大姊

清年七月

修通院

小石川

大娘君

小松中納言相友屋中

唐古曰己亥年 淨張生 淨母淨老之配 壬戌年七月

二日內逝云

天德院殿蓮淨貝大姊 淨年廿四文 天德院

加列金沢小三郎

晴姬君 淨年廿四文 天德院

此初在のい姫君在御方松平之河守右近衛屋中一称

唐長二 辛巳年 淨張生 淨母大淨老實文二十二年

二月十日內逝云

西久保

天崇院殿和奏家安量樹大後女 淨年七十二文 天德寺

長九君

唐長七 壬寅年 淨張生 淨母大淨老唐長九甲辰年

九月十日內逝云

招上丁川

林德院殿美嶺崇心大童子 淨年二十文 源真院

初姬君 弟松尾俊守忠三室

唐長七 壬寅年 淨張生 淨母大淨老實永七庚午年

二月四日 內逝云

真安院殿量美天清陽山大姊 淨年廿四文 淨通院

家元云

清初在

竹外作

唐長九甲辰年七月十七日 濟誕生元祖六庚申年正月
 廿叙 送位日年十一月三日 授中納言山叙位同九月
 年三月十日 在攝大將右左寮濟世山並任同二年七月
 征夷大將軍正三位河左大臣源和集學方院別西河身其
 年申云杖隨身 宣下實承承之丙寅年八月十八日從
 一位左大臣山叙任唐安 辛卯年四月廿日薨濟
 大猷院贈正一位大相國
 濟母大園考吉書女吳淺并傳方子長政女稱

大濟老實承承之丙寅年九月十日 出遊云
 宗源院贈正一位大夫人昌養 兼其紀清大祥定元
 濟老不重自國白左大臣信房之女淺中り九殿
 延宣二年宣承二年六月八日 出遊云
 本理院殿正興言系之徹心大祥定元 濟年七十三入
 修通院
 忠長卿 出初在 國初在 強向大初云從二位
 慶長十二年六月朔日 出遊云 濟母大濟老實承承
 十三年十二月二日於上野宮濟出遊云

峯嚴院殿法微晚雲大居士 亦年亦八才

上利寺
上信寺

和子君 東福門院

後水尾院中宮

慶長十二乙未年十月廿日

淨誕生元祿十庚申年二月

十六日 入四月九癸亥年十二月十九日 皇女雅宮隨從寬

永元甲子年十一月廿日 中宮宣下同乙巳年十一月廿日

後水尾院准后淨穰位時中宮親女院同年同月

九月甲子福門院延室六戊年二月十五日 亮淨集

七指一采

淨母大淨卷

東山
泉涌寺

九
正之卿

保科

叔子肥後守

吾佐左中將

亦為石

幸叔元

慶長十六辛亥年正月廿日 誕生 淨母竹村女於

靜子之室又十二月二十日 淨逝云

淨光院殿吳列於令律日蓮宗建一戶

淨光院云

土澤靈神

淨年二十二年

蘇真列令律

仙和君

淨誕生年号月日不知

淨母

大淨卷

蘇別後不詳

中平二女之逝也

沈養女

毛刊

中平大德六年秀德室

實德傳中細云秀德之侍女明曆元乙未年六月某日

逝去沈年不知

西久保

龍昌院殿長養元山秋莫大位女

天德寺

沈養女 九條大位及侍云出位中 實丹披侍秀德女

大猷院殿出位也出侍

實德傳長政女 大猷院出位也秀德女

沈法皇出年其年不知 秀德傳 車去後又及侍入雲又及侍

仁壽後 在德院云 沈養而及侍也

沈養女

中平神後古右後室位 實丹披侍秀德女

實丹披侍秀德女

沈法皇不知

實德十六年九月廿二日

入雲

子作娘君

尾張大德云光友卿也

實德十古丁丑年里二月廿日 沈誕生

沈母是右左衛門女

於振子也 元 承和十一年十二月十日逝也

雲仙院殿長養元山秋月大姊

悟上寺

家德云

淨如石

竹下代君

寬永十八年八月三日

淨誕生四保二乙酉年四月十日

淨元服正二位授大納言 淨叙任廣安二年八月十日

征夷大將軍伊弉冉直務存馬皇列由源氏長者隨牙

兵校牛車宣下地先從兼惠二美己酉年八月十日任左大臣

延寶八年申年五月八日 兼淨 中弟三拾弔

高寺院殿贈正一位大相國

永應元年壬辰年 出遊去

淨母不詳在河上之長子
女始在紫後於樂取坊山淨王
少怖淨

寶樹院殿從三位華嚴天葉大姊

子家山

寬永寺

淨意所伏之尊那卿 貞清親王皇女延寶四年八月八日

兼淨

高藏院殿贈位月洞圓真大姊

上淨

春性院

秀松石

寬永十九年壬午年四月十日 出遊去

淨母不詳廣安元年

子年七月十日 出遊去 壬午年七月

鈴真院殿秋威負利大童子

西ノ久保

天德寺

龜松丸

宣統二年癸未年二月廿七日 淨誕生 法如不詳

宣統四年八月廿三日 逝去 小年五月

月溪院殿草庵号英大童子 小石月 傳通院

綱重云 小知石 長叔九 叔年九月 甲府宰相

正保元 甲申年五月廿七日 淨誕生

延宣二年九月廿七日 逝去 同年日月廿日 替

納云 淨誕生 庚寅年八月廿七日 征夷大將軍正一

位大相 小知石 淨誕生

清陽院殿系卷天母永飛大居士 傳通院

淨年三十五

小石月 淨誕生 宣統二年九月十日 逝去

宣統二年十月廿日 改葬 塔上之月 通雲院

總者云

正保二年四月廿日 淨誕生 慶安四年四月廿日 淨

十石石希惠之七 慶安十年十一月廿日 逝去 叔年五月

淨年九月二日 癸巳年八月十二日 從下 右也 傳通院

清苑新書司景園白商補云殊位子

寶永二年二月九日 荒清

清苑院殿賜位一位者者心殊大姊

清苑院

嘉永元年 紀伊中物云經教之管

延寶五年己未四月八日 清苑院 清苑少庵檢之信

後堀田將監改名安 控傳之月

寶永元年甲申辛酉四月十二日 出遊去 出年亦八月

明信院殿工秀定社沱卷惠彰光親大姊 控上寺

德和君 德和云將軍家 清和院後 祿永君 控傳之月

延寶七年乙未辛酉五月六日 清苑院 清苑控傳之月

天和二年癸亥辛酉五月六日 出遊去 出年亦八月

清苑院殿重盛宗心大臺子 控上寺

清苑院

八重峯君 出年將大學之屋中 藤妻後 祿永院

寶永二年丙申五月十七日 出遊去

出年亦八月

随性院殿

上野親世院

淨卷中
喜報姓名

實尾法中納言德誠云女元孫十一代宣旨四月朔日

淨尾法中納言日辛七月七日逝去本年二年

小石川

智法院殿兼養本番良薰大童子

傳道院

淨卷中

如云

松尾君

松平若殿守室

實尾法中納言德誠云女孫傳入庚子年九月廿日逝去

傳道院

光院院殿後養兼保大姉

淨卷中

如云

行姫君

松平大納言經世室

實尾法中納言大孫思定云女安永元壬辰年十二月日

逝去

薩州唐土番

福昌寺

淨岸院殿後養法仁祐元大禪定尼

家宣云

淨初君

虎松丸

實甲府宰相德重卿 小幡子實之壬寅年四月廿日

日逝去延享四年丙辰年十二月十日 淨元院

從之佐左近將權中將兼左大臣

淨叙院

德吉云

由一字淨行院德重石目一戊午年十月亦日

德重云

清嘉慶錫日八庚申年九月十六日所叙 宰相拾石

清加增額合之按多石所清淨順元福之庚午年十二月五日

德吉云任控中初云室承元甲申年十二月五日

德吉云清養居於 德出同月九日稱 家室云月二

乙酉年 十月九日正二德權大德云 亦叙任同六月五日

五月朔日正二德內大臣 清叙任將軍 定下亦先錄

正德二壬辰年 十月十日 堯清 清年五月五日

增上寺

文照院殿贈正位大相國順蓮社法養席大居士

清母甲辰年清於保表之日實文曰甲辰年二月十五日
古逝云

長昌院殿贈正位天皇女亮大姊 上野

清母所直情園白基熱之女照子元文之幸百幸二月十五日

堯清

天英院殿

豐雅居

天和元 辛酉年八月廿日 清誕生 亦母天英院殿

天和二 壬戌年十月廿日 古逝云 亦年二女

妙敬日信

麻布
妙行寺

政雅名

實因自家照以如室永元甲申年七月廿二日 由逝去

本宗院殿

保川
為泉寺

家代君

室永四丁亥年七月十日 由獲生 淨如六右十兩宗偏女林

右通房法号 法心院殿宮永又成子年九月廿六日由逝去

由年三月

知初院殿露月涼亮大童子

傳通院

大為亮君

室永又成子年十二月廿二日 淨延生

淨母 掃帚持方如之隨費之喜安 室永七丁亥年八月十二日

由逝去由年三月

復岸院殿月光秋亮大童子

傳通院

家継云 稱世良田福取九

室永六乙丑年七月二日 淨延生 正徳二丁亥年十二月

古の山二位控方御之 行叙任將軍 宣下女先順心

徳六丙申二年四月晦日 景清

有章院殿贈正二位大相國照遠社女養徳宗大居士

由年六才 清母清田元統母称左京房初名喜世室曆二

壬申年九月十九日也

増上丁

月光院殿徳三位

虎九名

正徳元年卯年八月廿六日

清徳寺清母於清徳寺

徳之癸巳年十一月六日

也近也

法年三丁

後崇院殿霜卷和英大童子

大徳寺

長宗云 清初名 和之而名 後源心名

實 傳伴大弼之叔室及清嫡曰大御子之貞貞

享元甲子年十月廿日 清徳寺之孫丙子年十二月十二

日從四位下少将由叙任称之祝御和之乃日十丁丑年

三月十日賜神女轉之乃石室永二乙酉年十月廿日傳

亦也其後日辛十月廿日從三位中侍由叙任称 長宗云

日之百成辛十月廿日叙 長宗曰曰丁亥年十

二月十日叙任 權中納言保元丙申年五月朔日

将家系 清和天皇 延和二年六月十日

将家 定下如先皇保元元年八月七日在左大臣任

任延享二年九月廿五日西行山形河原大行所撰

宝曆元年五月廿六日 荒行 山形六十六

有德院殿昭王位大相玉

清和巨势劫后入女官保元元年六月九日

清和院殿祥老智持上大夫

纪别上大夫山形中 依之文仁親之女

定尔七唐定元六月四日 山形云

定德院殿玄玄日中大辨

北上 山形

家系云

清和名 长福名

正德元年卯年十二月十日 清和生 享保十乙巳年四月廿

所之延正三位大辨云 山形任林 家系云 卯年二月

十九日二九月西行山形抄后定保元元年八月七日在

情有得 清和任延享二乙巳年十月二日 将家定

下如先皇宝曆十庚辰年二月四日 在左大臣 清和任

同年五月十日 山形 大行所撰二卷山形抄后日十

子月十日

覺濟

山年五十一

招上寺

信法院殿贈正任右衛門少輔源朝光奉養在任七

所母大之保子高女希忠貞女正德之癸巳年十月十日

所被上

比上

七門寺

深法院殿妙順日喜大姊

將軍以等之遺孀氏入中務令承親之女

北之宮

字保子之癸丑十月十日逝去

上所

妻性院

淺法院殿社岸之惠大姊

宗武卿

田安

徳川右衛門督

所知名少三郎君

正徳天乙未年十月十日

所被上京保古乙酉年九月

十日 所之被後之信中將

所叙任祿 徳川右衛門

督守武人出請料之百俵也 乙酉年九月

十月二十九日田安出取之抄後延享二年十月二日

所任左衛門之西宮年九月十日所被上京保古乙酉年九月

明和文子年又月十日

所被上京保古乙酉年九月

六月十日逝去

田安系之妻

元三石

享保四己亥年二月十日 河内生同年八月十日 山樂

河内田中利久宿門女松之末子

上行

涼池院殿雪岸和門大童子

凌雲院

宗平卿

可授 德川形於之 山樂石山系希君

寬永元 享保二年十一月廿五日 二九分 可授 山樂 山移院

委可授 山樂 祈之出

昔非石

享保二辛丑年九月十日 河内生同年十一月五日

山樂之 河内久保女不祥

正雲院殿皓月姫

河内女

利根姫石

水子 隆慶寺 宗村石

實紀傳大御之宗直女享保二丁丑年八月朔日 山樂生

延享子乙丑年同十二月十日 河内去

要研松山

信者了

雲松院殿

石石

享保十八癸丑年九月九日

逝去 津由北之官

河誕生日月十日

吉定院殿

家法云

不知名行代名

元文二丁巳年五月十日

津誕生享保元年五月十日

八月十日 津之徒心二徒控大納言

亦叙任日十月庚辰

辛二月十日 在大将山事任日辛九月十日 心二徒日大后

比叙任将守宣下如先叙安永九年九月十日

本官 津由佐天照二年九月十日 荒津 四年三月十日

法明院殿贈心二徒大相公

东殿山

安永三年

津由溪中御之通條之女於辛三月於之在延喜元年

中曆辛二月廿五日 津逝去

空之院殿

上行

護法院

津老所困院心二品貞仁親之女 不十文

論子

明和八年卯年八月布日荒津

东殿山

安永寺

心親院殿贈心二徒津池蓮生大姊

重好仁

津川宮内九

以石名百二布石名

癸亥二月十日香 山延生室曆九己卯年九月

廿七日 沂之於從之佳中將 沂叙任稱 官內重好

九月年十月十日法身出居致山移院天順之辛丑年

十二月五日法從 冬之微安之遊曰壬子年 是二月十日法從

中物之安之遊七乙卯年七月十日逝去

法德院殿

沂每松年之十而春子安之海一而春一而月女於也

三月安之遊元己酉年四月十日逝去

安祥院殿受德光洞大姊

上北 善同寺

沂養中依之去致人自建親之服云 田新云自子

宣好之逝去後蘇蘇等 自章院殿

子代娘名

寶曆二丙子年七月十日 沂誕生 沂每

心親院殿室曆七丁丑年四月十二日 山逝去

花光院殿法身大童子 凌雲院

美善所唯表

室曆十一辛巳年八月朔日 沂誕生 沂每大同

安和二年己卯二月十日 沂逝云 享年拾二

宗憲院殿蓮界室後大姊

上沂 凌雲院

家基云 沂如少行成云

室曆十二年十月十日 沂逝云 沂如律田大姊

女叔律田白向守出例勅後於子尾之月稱 蓮之院殿

明和乙卯年十二月朔日稱 家基云同之丙戌年正月某日

沂之往同年四月二日正三夜檢古初之 沂叙律安承

小乙亥云二月十日 堯沂 享年十六

考恭院殿賜内大臣

貞原弟若

室永十二年十一月十日 沂逝云 沂如若井氏記

大梅女 於表於之室曆十之癸未年三月十日 沂逝云

宗長院殿初如性覺大皇子 享年二歲 凌雲院

種非若 紀律中細之依寶印也

實田安中細之宗永月女明和丁酉年七月十七日 沂逝云

沂如山村女 每永日乙未年十一月朔日

家依之沂長女 依云大明七丁未年十一月十日 紀律中細之

依室之入書

家齊月云

實一摺中細之流蘇也

安永二癸巳年十月五日 行從生大明元幸丑年五月十日

家法云 行春香信信生年 稱 若若標 大明二壬寅年四月

之日 行元枝三信大細了 行叙任大明七丁未年四月十

五日 行字定下如先蹤 行母若年內孫正利女

行秀之日

行嘉所

由情園白衣衣信書女實是這已年之月信任
從二信實本平應應守宜亦女 行順

淑雅若

寬政元己酉年三月廿五日 行從生同二年二月廿日

尾法殿由痛五節太殿上 行海能法 信出同七年行新

源日八辰年二月五日 德川慎女信餘上 信再海之信法

信出行由平信伴若守信喜女信了信信 信由信信

雅若二

寬政二年十月朔日 行從生 信母於方之日二年

十月二日 由遊去

隴岸院殿

古年

上 所 凌雲院

竹外休若

寬政四年七月十日 行儀生由由右日

日又癸丑年六月十日 出遊云 出遊二年

孝順院殿

悟上寺

家慶云 大綱云 行初者 如二帝者

寬政五年五月十日 行儀之清母持日長慶

於廿案云 同九月十日 行加身任

大綱之日亦云 西九月十日 行初

彰惟云

其二條辰出息女 彰之信是也 年月日 國事云云

一推刑部云 出入無信云云 出遊云 後稱 宗孝院殿

行甲子孫云

寬政六年五月十日 行儀之由母云 所虎之友時

於梅之日日 出遊云

信正院殿

涼雲院

信雅云 實因院之友雅云 裕信

寬政七年十月十日 國事云云 日向月十日 田安右

信之信云 行入信云

信之信云

寶通七年十二月十日 行誥生 行母 行母 行母

於寶通七年十二月十日 行母 行母 行母

山養子 行母 行母 行母

瑞岩院殿

傳道院

敦之 行母

寶通七年十二月十九日 行誥生 行母

行母 行母 行母

雙門院殿

法雲院

後照石

寶通七年七月十日 行誥生 行母 行母

是七月十日 行母 行母 行母

行母 行母 行母

羅玉院殿

悟上寺

後照石

寶通七年十月十日 行誥生 行母 行母

行母 行母 行母

樓真院殿

法雲院

寶通七年

寶曆十年年二月晦日 淨慧生淨母水師左衛門女

淨母于同日年六月廿四日 出逝云

法雲院 淨母

換娘名十一

寶曆十年年八月廿卯申刻淨慧生淨母出書院書

部比奈舍人女於己尾之日十一月廿未年六月廿四日 出逝云

淨緣院殿 法雲院

天百娘名十一

寶曆十未年十二月十一日淨慧生淨母於己尾之日元換娘名

100

明正二年七月二日
奉教
名

右衛門女

凌雲院

凌雲院

...

